

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学教員の ICT による教育技術力の向上を支援するため、大学・短期大学の教員を対象に「FD のための情報技術研究講習会」を学外 FD としてオンライン方式で実施する。分野に共通して必要となる ICT の活用方法及び教育改善手法の習得、ICT 活用の著作権に対する知識・理解の促進を目的として、オンデマンド型・リアルタイム型の遠隔授業の知識・技術、遠隔授業における学修評価の方法とルーブリックの作成、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型授業の進め方、動画・音声教材の制作、データサイエンス・AI 活用授業の進め方などについて、情報提供と意見交流及びワークショップ形式により実施する。

<事業の実施結果>

「FD 情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、「FD のための情報技術研究講習会」を実施した。以下に、委員会及び研究講習会の活動を報告する。

FD 情報技術講習会運営委員会

2021 年(令和 3 年)12 月 17 日、2022 年(令和 4 年)2 月 4 日に平均 6 名が出席して 2 回開催し、開催計画の策定、実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

FD のための情報技術研究講習会は、コロナ禍 2 年目となり、教員の問題意識が高まっていることから、ワークショップに合わせて、参加者がその場で自由に討論する情報交換の場を設定することとし、オンラインによる 1 日間の研究講習会を実施することにした。

プログラムは、「全体会」でハイブリッド授業の進め方、オンラインでの不正防止対策の取組みと今後の在り方、著作権処理のポイントと補償金対応の情報提供を行うことにした。また、「ワークショップ」では、①オンライン授業による試験方法と学修評価の仕方、②仮想患者システム、③オンライン授業のツール活用・紹介、④LMS の効果的な利用例、⑤オンラインも対面も、Teams と LMS で実現する反転授業、⑥法政策等フォーラム型授業、多職種連携型 PBL 授業の 6 コースを設定し、参加者が希望に応じて参加するアラカルト方式とした。その上で「全体討議」として、参加者が希望するテーマを情報交流する場を設け、学生に最良な学びを提供するための授業展開などについて、理解の深化を目指して、以下のように開催要項を策定した。

2021 年度 FD のための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：令和 4 年 2 月 25 日(金)
2. 会 場：Zoom 会議室
3. 対 象 者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学教員
4. 講習会の概要

先生方は、2 年に亘りオンライン授業を体験され、学生にとって良かった面、不都合であった面を通じて、授業価値の最大化に向けた教育方法について、見直す機会を持たれたのではないかと思います。

ご承知の通り、コロナ禍を転機に対面授業に加えて教育のデジタル変革(DX)が進みつつあります。文部科学省においてもオンライン授業を導入して、学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を大学に働きかけており、後戻りしないとしています。

これからは、対面とオンラインを組合せた授業を如何にデザインし、学生に最良な学びを提供できるかが問われるようになる中、実際にどのように自分の授業の中で展開していけば良いのか、不安や戸惑いを感じる教員も少なくないのではないのでしょうか。

そこで、本研究講習会では、オンライン授業の進め方、不正防止対策、ツールの紹介、LMS の使用方法、著作権、フォーラム型授業などについて、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定し、その上で「全体討議」として参加者が希望するテーマなどについて情報交流する場を設けました。

【全体会】

- (1) 「ハイブリッド授業の進め方 — ブレンド型授業・ハイフレックス型授業」
森田 裕介 氏（早稲田大学大学総合研究センター副所長、人間科学学術院教授）
- (2) 「オンラインでの不正防止対策の取組みと今後の在り方」
巳波 弘佳 氏（関西学院大学副学長、情報化推進機構長）
- (3) 「ICT を活用した著作権処理のポイントと補償金の対応」
中村 壽宏 氏（神奈川大学教育支援センター副所長、法学部教授）

【ワークショップ】

ここでは、オンライン授業の評価方法、擬似体験・連携授業、ツールの紹介、LMS 活用事例、フォーラム型 PBL などについて、知識理解や情報技術の情報提供を通じて、グループで意見交換しながら理解を深めるため、参加される先生それぞれが希望に応じて参加するアラカルト方式で実施します。

- (1) ワークショップ 1 「オンライン授業による試験方法と学修評価の仕方」
山田 剛史 氏（関西大学教育推進部教授）
- (2) ワークショップ 2 「仮想患者システム (VP)、e-ラーニングで疑似体験する臨床教育・地域連携授業」
片岡 竜太 氏（昭和大学歯学部歯科医学教育推進室長、主任教授）
- (3) ワークショップ 3 「オンライン授業で使うツールの活用」
二瓶 裕之 氏（北海道医療大学情報センター長、薬学部教授）
「ハイフレックス授業で利用したツールの紹介」
及川 義道 氏（東海大学教育開発研究センター所長補佐、理系教育センター教授）
- (4) ワークショップ 4 「LMS の効果的な利用例」
 - ・ 自己学習型授業とハイフレックス授業（ビデオ講演）
渡辺 博芳 氏（帝京大学ラーニングテクノロジー開発室所長、理工学部教授）
 - ・ オンデマンド型による講義と実習の実践
及川 義道 氏（東海大学教育開発研究センター所長補佐、理系教育センター教授）
- (5) ワークショップ 5 「オンラインも対面も、Teams と LMS で実現する反転授業」
児島 完二 氏（名古屋学院大学経済学部教授）
- (6) ワークショップ 6
 - ・ 法政策等フォーラム型授業
中村 壽宏 氏（神奈川大学教育支援センター副所長、法学部教授）
 - ・ 多職種連携型 PBL 授業
片岡 竜太 氏（昭和大学歯学部歯科医学教育推進室長、主任教授）

【全体討議】

テーマやキーワード別にブレイクアウトルームを設定しますので、意見交換したい部屋を選択し、授業での課題や今後の取組み計画などをグループで議論いただきます。

(2) 実施結果

2022 年(令和 4 年)2 月 25 日に開催し、Zoom 会議室を会場に 61 大学 4 短期大学から 95 名の参加があった。以下に、アンケートを踏まえた結果を報告する。

1. 参加教員全員を対象とする全体会では、「ハイブリッド授業の進め方」、「オンラインでの不正防止対策の取組みと今後の在り方」、「著作権処理のポイントと補償金の対応」について説明を行った。

参加された教員からの講習会全体の感想として、「オンライン授業が 2 年目に入り、緊急対応から平常時の対応になり、いくつかの問題点を知ることができて非常に参考になった」、「ハイブリッド授業や評価の難しさなど利点と課題が明確化できた」、「講習時間を短めに設定し、午後にはグループディスカッションを取り入れるなど、リモート授業を意識した構成だと思った」、「口頭での質問はしにくかった、コメント欄への書き込みも促せば質問しやすかった」

また、全体討議については、「他大学の先生も同じ思いを持っていることやその

ような環境の中での工夫がわかり、今後の課題や解決法を探す良い機会となった(4名)、「グループ討論の時間はなくても良いような気がした(1名)」などが寄せられた。

2. ワークショップの達成度を以下に掲載する。(アンケートの回答者 30名)

ワークショップ名	達成できた	見通しがた った	達成できな かった
① オンライン授業による試験方法と学修評価の仕方	1割(2人)	8割(16人)	1割(1人)
② 仮想患者システム、e-ラーニング臨床教育・地域連携授業		8割(3人)	2割(1人)
③ オンライン授業のツール活用・紹介		10割(4人)	
④ LMSの効果的な利用例		9割(14人)	1割(1人)
⑤ オンラインも対面も、TeamsとLMSで実現する反転授業		9割(8人)	1割(1人)
⑥ 法政策等フォーラム型授業、多職種連携型PBL授業		5割(1人)	5割(1人)

3. ワークショップごとの特徴的な感想・意見を以下に紹介する。

- ① オンライン授業の試験方法・学修評価：「学修評価は、コロナ禍以前からあるコンセプトを基に工夫すれば十分達成できると感じた」、「オンライン授業では学生へのフィードバックが大切だと感じた」、「従来試験のオンライン化ではなく、平常点評価でリスク分散するという考え方を知り、その通りだと思った」、「医療系教員とディスカッションができ、オンライン授業の進め方やツールについて聴けて有意義だった」などの感想があった。
- ② 仮想患者システム、e-ラーニング臨床教育・地域連携授業：「10年前のプロジェクトがここまでできていたという事例を知ることができた。客観的臨床能力試験の法制化が控えていることもあり、それに順応していくために仮想患者システムが有効な一手になると感じた」、「グループを意図的に振り分けてあったので話やすく参考になった」、「他施設の状況を知り情報共有はできた」などの感想があった。
- ③ オンライン授業のツール活用・紹介：「DX講義の工夫を学ぶことができ非常に勉強になり自分の講義へと調整していただけます」、「学生にGoogle Formsで問題を作成させ相互に回答するアイデアを取入れてみたい」、「私にはレベルが高すぎる場所もあるが、動画を見返してチャレンジしてみる」などの感想があった。
- ④ LMSの効果的な利用例：「LMSが授業に占める役割が大きくなり、補足的なツールというよりメインに据えていく方向性を応用してみたい」、「目指すべき教育と現実的な教員の時間配分がうまくいかない印象があったが、チャレンジすることで新たな課題が生まれ、課題解決の糸口も探れるため、今はチャレンジの時期と考えて取組もうと思う」、「学生にとって有効な振り返りについて考えさせられる時間になった」、「あまり新たな発見はなかった」などの感想があった。
- ⑤ 反転授業：「予習をさせることで授業時間を浮かせ、ディスカッションなどを取入れるという点に共感した」、「ツールや検討課題など多くの知見が得られ、少しずつ反転授業を導入していきたい」、「反転授業の要素を取入れた授業デザインのきっかけになった」、「グループ討議では、参加者も初めての方が多く、反転授業の進め方などにつながる議論までには至らなかった」などの感想があった。
- ⑥ フォーラム・PBL授業：「多職種連携授業の導入は、単科大学で導入するのは困難だが、ツールのデジタル化を図り基盤づくりを進めることができる示唆をもらった」、「他のワークショップに参加するつもりが間違っって参加して人数が少なく出るに不出られず議論もあまりできず申し訳なかった」などの感想があった。

4. 全体討議(テーマ別ブレイクアウトルーム)参加者の特徴的な感想を紹介する。

- ① ハイフレックス授業について、各大学の苦労や画期的な改良点が学べた。
- ② 実験実習や討論学習などオンラインで行うことが難しい授業形態ですが、各大学での取組みを聴かせていただき今後の参考になった。
- ③ オンライン授業環境整備について、他大学の興味深い試みを聞くことができた。なお、希望するテーマ(部屋)での討議運営は、フリーディスカッションで行うことに盛り上がりには限界があるので、予め部屋を指定しておくとか、参加者内で司会進行を設定するなど発言を促す働きかけがあっても良かった。
- ④ 誰が音頭をとるかで最初もたついたが、意見は言い合えたと思う。